



The Milwaukee Brace

by W. P. Blount, J. H. Moe

この本は、Scoliosis の概論から手術後の Milwaukee brace の使用まで、Scoliosis の非観血的療法の原理・治療の適応・運動療法・合併症・Brace の製作方法など9章にわたって巾広く書かれているが、その中で特に PT に関係の深い章“Exercises with brace treatment”について紹介する。著作権の関係で全訳で紹介出来ないのが残念だがその大要は次のとおりである。著者は運動を大きく2つに分け、

1. Brace によって弱くなった体幹筋力の増強をはかるように計画された運動。

2. 脊椎の異常な曲りと胸郭の変形を自動的に矯正することを助けるために特別に計画された運動。呼吸運動も併用。

としているが、1、2をとおして共通している運動は骨ばん後傾、すなわち腰椎前弯の矯正ですべての運動の基礎となっている。Scoliosis に対して従来から行われてきた非対称的運動を更に発展させ、Brace を装着しないで行う対称的運動療法と、Brace を装着して行う非対称的運動療法とを組合せ、更に体幹を左右に曲げることによって脊椎の1次カーブ及び2次カーブがどのように変

化し矯正されるか、豊富な写真を示しながらいねいに説明している。

上手に Milwaukee brace を用いれば運動療法を行わなくてもある程度の効果はあがるが、特別に訓練された PT によって綿密に計画された運動プログラムを与えれば、その効果は非常に大きく且つ早い。運動を指導するにあたって、定期的に、体幹の左右への傾きと胸郭の突出の大きさを後頭部突起から垂げられた鉛垂線により測り、その位置によって進歩の度合を知ることが出来る。いずれの運動も PT が直接患者の体につかれ、体の動きを患者に認めさせることによってその効果をあげているが、患者が運動の意味をよく理解するようになれば集団療法も可能である。PT はあらかじめ運動の原理と実際の方法を自分自身でくりかえし行いよく修得しておかなければならない。Scoliosis に興味をもつ PT にはよい参考書となるだろう。この本は割合新らしく出版されたもので、日本語版があるかどうか私には解らないが、もし御存知の方があれば御一報願えれば幸である。

(The Williams & Wilkins Co., 198 頁 3,120 円 1973)

(青梅市立総合病院, 理学療法士 赤坂 潤)

Physiologie Articulaire, Fascicule III: Tronc et Rachis

par I. A. Kapandji

著者は、解剖学的図画を描くことに非常にすぐれた整形外科医であり、上肢、下肢の関節の機能学について以前に2冊を書いており、この2冊はそれ以来英訳された。第3巻は体幹および脊柱の関節機能学が書かれており、5章に分けられている。

第1章は脊柱の全体について、全部の椎骨の共通性質、特に機能力に対する椎間円板の作用を論じている。体幹において脊柱の許される可動性の性質およびその運動の程度を述べている。第2章は骨盤帯および仙腸関節が書いてある。第3章は腰椎の運動・固定機能が述べられている。体幹筋の作用と腰椎かつ腰仙連結の運動性との関係は特に詳しく論じられている。腰椎また腰仙連結における典型的な病態は明確に例解されている。第4章は胸椎および呼吸機能について論じ、胸椎とその運動性だけでなく、肋椎関節と胸椎関節と胸肋関節の機能も書

かれている。呼吸筋の作用は呼吸機能・不機能に関係が結ばれている。第5章は、頸椎について論じ、非常に複雑な主題を見事にはっきりした図解で差し出している。頸の上での頭の運動および頸部自体の運動と、頸椎の種々な関節の作用との関係が説明されている。筋肉および靱帯の役割も述べられている。

本書はフランス語で書かれてあるが、図解の平明さによって、文章のわかりにくいところも理解しやすくなるであろう。脊柱に関する問題を治療している療法士、特にマニピュレーションの方法を習いたい者に、この書物を参考書としてすすめたい。呼吸に対する骨格筋上の現象を勉強するのに本書物はわかりやすい入門的参考の一つとなるであろう。

(Librairie Maloine S.A. 255 頁 58 フラン 1972)

(信原病院, 理学療法士 ポール・アンドリュウ)